

●事例紹介●

危機管理と心理学

～千葉科学大学危機管理学部の事例とともに～

粕川 正光

(千葉科学大学危機管理学部助手)

一 はじめに

危機管理と心理学は、どちらも今日の社会において最も関心の高いキーワードの一つとなっているといつてよいだろう。二一世紀に入った我が国の社会状況は、経済成長の停滞、急速に進む少子・高齢化、地球環境の悪化などに代表される停滞・後退の時代となり、二〇世紀後半のめざましい経済発展に支えられた高度成長の時代から一変した。このような社会情勢への不安を背景に、危機管理および心理学に対する関心は非常に高く、それらに関する知見の社会の中での需要は高まる一方となっていると思われる。

本稿では、危機管理と心理学について述べるとともに、筆者の所属する千葉科学大学危機管理学部および、そのカリキュラムにおける心理学の位置づけについて紹介する。

二 千葉科学大学危機管理学部について

千葉科学大学は、二〇〇四年四月に千葉県銚子市に開学した大学であり、薬学部と危機管理学部から構成されている。特に、危機管理学部は全国で初めて開設された、危機管理の専門教育を行う学部である。

近年の複雑化した社会においては、科学技術の発展と国際化が進む一方、事故・災害・犯罪などの生活の安全を脅

かす事態が多発するようになってきている。これらの危機的事態における被害を未然に防ぐこと、さらにこれらの危機に対処する確かな対処を行い安全を確保することは、国・地方自治体・さらには国民の一人ひとりととつても最大の課題ともなっている。しかし、危機管理という学問体系は、いまだに未成熟であり、系統的な研究活動もほとんどなされていがないのが現状である。

危機管理に関連する教育研究は、これまでは工学部、生産管理学部、社会学部などにおいて、工場管理、安全工学、品質管理、防災計画、保険等の科目として、その一部が独自に扱われてきた。

しかし、近年のように高度に情報化し、技術を中心としたハードウェアの要因とそれを扱う人間の要因が複雑に入り交じった社会においては、緊急時に発生する事態は極めて多様化し、様々な事象に同時に迅速に対処しなければならなくなってきた。

例えば、大震災等の際に発生する災害は、建造物の倒壊・火災・交通障害・土砂災害・ライフライン損壊など多岐にわたり、それへの対処も二次災害防止、ライフライン確保、情報の収集と発信、生活環境の保全、救急救命など、多方面にわたる。

さらに、リスクマネジメントの立場からは、事故や災

害発生以前の予知と予防、ならびに危機対応マニュアルの作成、再発防止策の策定、環境への影響調査、被災者の心的後遺症対策などの対応が、事前・事後の両方において必要である。

これらの事態に適切に対処するためには、既設学部の枠組みでこの危機管理を取り上げるだけでは不十分となり、危機、すなわち不測の事態が生じた際に組織的な対応ができる人材を養成する学部が必要となってくる。本学の危機管理学部はそのような理念のもとで発足した。

危機管理学部は、「防災システム学科」「環境安全システム学科」および「危機管理システム学科」の三学科から構成されている。この三学科が互いに連携して教育・研究にあたることにより、様々な危機およびその管理に関連する諸学問領域を総合して新しい教育・研究システムを構築し、危機管理に関する諸問題をいろいろな分野から解決する糸口を見いだし、その対策を講じて安全・安心な社会作りへ貢献できる人材を養成することを目指しているものである。

三 心理学と危機管理

心理学は「行動と心的過程についての科学的研究」であ

ると定義される。こころと呼ばれるものの様々な働きである心的過程と、その心的過程に基づく行動を科学的に探求する学問である。様々な心理学の研究分野は、このころのどのような側面に注目して研究しているかによって、分類される。

心理学と聞いた場合にイメージする内容は人によって異なるであろう。ひとくちに心理学とはいっても、その研究分野の幅は非常に広い。ある人は、悩んでいる人のカウンセリングをするのが心理学だと考えている（臨床心理学）し、ある人は、無意識や深層心理の世界を探るのが心理学だと思っている（精神分析）。あるいは、子どもの発達過程を研究するのも心理学の一分野（発達心理学）であるし、対人関係や集団心理などの研究も心理学の一分野（社会心理学）である。また、効果的な学習手法を研究したり、教育の効果を評価したり（教育心理学）、人間の脳機能を研究したりもする（神経心理学）。自分自身を振り返ってみてもそうであったが、一般的な心理学のイメージと、大学などで学ぶ実際の心理学的研究内容の間には大きな隔たりがあることが多い。

危機管理とは、災害などにおける被害を未然に防ぐこと、さらにこれらの危機に対処する確かな対処を行い安全を確保することが目的となる。危機管理について考える場合に、

技術を中心としたハードウェアの要因と人間の要因の双方を合わせて考えることが必要であり、人間の要因について考える場合に、中心的な役割を果たすものの一つが心理学であるといえよう。

危機管理に取り組む上では、人間の側面を考慮することは不可欠であるので、危機管理のあらゆる場面において、何らかの形で心理学的知見が利用されていると言ってよいだろう。危機管理に取り組むにあたって、人のこのころに関する知識や配慮なしに、制度的、法律的、組織的な対策を講じることは非常に危ういことである。

しかしその一方で、危機管理に際して考慮しなければいけない心理学的知識とはどのようなものかと言えば、それは難しい問題である。「危機管理の心理学」のように取り上げられることは少なくないが、その中で具体的に取り上げられる内容は、ある時はリスク認知の問題であり、ある時は心的トラウマの問題であり、ある時はヒューマンエラーの問題、という具合に全く異なっていることが珍しくない。対象が変われば、危機管理の具体的内容が全く異なるように、危機管理の対象によって、必要とされる心理学的トピックが全く異なっているためである。

その中でも、危機管理と関連して取り上げられることの多い心理学的トピックの一例を挙げてみる。心理学の研究

分野としては、社会心理学、認知心理学、臨床心理学などの分野と関連したトピックが多いと思われる。また、これらのトピックが利用される場合であっても、災害場面・学校現場・医療現場・交通場面などの、危機管理の場面における具体的な問題への対応に利用されることになるため、それぞれの場面に特有の事情がありそれを考慮する必要がある。

「危機管理に関する心理学的研究」の例

○危機状況下の行動に関するもの

避難行動の特徴

被害・被災者の心理

心的ストレスに対するサポートやケア

○危機管理者の行動に関するもの

クライシス・コミュニケーション

意思決定のプロセス

○組織行動に関するもの

組織不正の対応

組織の安全文化

○安全確保に関するもの

人間の認知特性

ヒューマンエラー

ヒューマンインターフェースのデザイン

○リスク・危機の認識に関するもの

リスク認知

リスク・コミュニケーション

ここで取り上げたトピックの多くは、必ずしも危機管理を視野に入れて行われた研究ではない。日本における心理学のこれまでの流れの主流は、学術的な心理学であり、「こことはなにか?」という、基礎的で哲学的な問に対して実証的な研究を行ってきた。このような基礎的な研究が今後も重要であることは疑いない。しかし一方で、現実の社会における問題と直結した、より応用的実践的な研究の重要性がここ一〇年くらいの間に非常に大きくなってきている。

また、従来は基礎的な知見を危機管理の場面に応用して語られることが多かったが、近年では、心理学研究者が、危機管理や危機対応を直接的に視野に入れた研究を行っているが目立つようになってきており、専門家の間でも危機管理の問題に関する関心が非常に高くなってきていることを感じている。

ある個人または社会全体が現在直面している危機的状况に対して、心理学の立場からサポートを行うことで状況の

改善に貢献できる場合は多い。心理学の専門家がこのような現実に関して無関係でありつづけることはできないだろう。あれこれ試行錯誤しながらでも、厳しい制約のもとでなんとか現実的な解を見いだし実践する努力をしていくことが、今後は心理学の専門家には一層求められると思われる。

ただしその一方で、何でもこの問題に帰属させようとする社会の風潮には注意しなければならない。全体を見ようとせず、例えば心的トラウマの問題だけを拾い上げ、トラウマを語るることによって安心してしまふようなことは絶対に避けるべきである。このような構図は、個人のレベルだけではなく、行政や社会でも見られ、何か事件が起こると、この問題の解決だという声が大きくなる場合がしばしば見受けられる。しかし、この問題だと帰属させてしまふだけで、実際には本質的なところでの解決になっていない。この問題が重要な問題ではあるが、そこに安易に問題を帰属させてしまふことには慎重であるべきであろう。

言うまでもないが、心理学だけで解決できる問題などほとんど無い。危機管理に際して、広い視野を持って多角的な分析をするということは非常に重要であり、心理学も危機に対応するためのアプローチの一つであることには留意すべきである。

四 危機管理学部における心理学関連カリキュラム

次に一例として、千葉科学大学危機管理学部のカリキュラムにおける、心理学関連科目の位置づけについて紹介する。

本学の危機管理学部において、心理学関連の専門科目としては、「人間行動学」「社会心理学」「リスク認知論」「緊急時心理学」などが開講されている。これらの科目に共通する目的は、人間の理解という点である。危機管理や事故防止に関しては、活動の主体である人間の特性についての理解ということは非常に重要であり、危機管理学部のカリキュラムにおいても、「人間行動学」を危機管理学部三学科共通の学部必修科目として位置づけ、危機管理学部のすべての学生が受講するようになっている。

「人間行動学」では、心理学的知見を中心として、人間の認知と行動の特徴、そして行動への影響要因に関する典型的事例を取り上げ、人間行動についての理論的な視点と実践的な研究方法を学習する。危機管理や事故防止に関しては、それらの活動の主体である人間の行動特徴を考慮しなければならず、特に、人間が特定の状況においてどのような行動するか、それぞれの行動がどのような要因から影響

をうけるかに関する知識を学ぶことはいかなる分野にも関連した重要な問題である。

「社会心理学」と「リスク認知論」は危機管理学部のうち、危機管理システム学科の必修科目となっている。危機管理システム学科は、危機管理学部の中で、自然科学と社会科学を融合したアプローチに重きを置く学科であり、これらの科目の学習を通じて、人間に関する理解をより深めてゆくこととなる。

「社会心理学」は一年次の必修科目であり、人間を社会との関係の中からとらえ、対人行動と人間関係、集団における心理過程、個人内の心理過程などについて、たとえば組織内の意志決定やリーダーシップなどのトピックスを取り上げながら、個人の認知行動特性と集団社会の特性との関係について学習する。

「リスク認知論」は二年次の必修科目であり、種々のリスクに対する人間の認知特徴、特にリスクイメージの形成過程とバイアス、確率の認知過程に関する知見について学習する。また、危機管理に対する専門家や一般住民のリスク認知の特徴について考察し、個人のリスク認知と社会のリスク受容のメカニズム、リスクコミュニケーションの技法を学習する。

危機管理システム学科の専門科目（選択科目）の一つと

して開講されているのが「緊急時心理学」である。この講義では、自然災害や事故などの災害現場における人間の心理と行動の特徴について、被災者の行動や意志決定、救済者の意志決定などを取り上げ、緊急時における人間の認知行動の特徴と、災害の予防および被害の軽減対策のための心理学的支援を学習する。

その他に、心理学に関する専門科目として、「生涯発達心理学」「人格心理学」「臨床心理学概説」「現代精神分析学」「カウンセリング概説」などが、一般教養科目として「人間と心理」が開講されている。

五 おわりに

以上、危機管理と心理学について述べるとともに、本学に関する紹介を行った。これからの社会において、危機管理の重要性がますます増加していくことは疑う余地のないところである。筆者も、危機管理学部に所属するスタッフの一員として、大学での研究活動や地域との関わりのなかで、危機管理に関する関心の高さを常に強く感じている。危機管理の問題のなかで、心理学がどうあるべきか、心理学の専門家がどのような役割を果たすべきか、今後とも考えていきたいと思います。